



TITLE:

献辞 (島恭彦教授記念號)

AUTHOR(S):

木原, 正雄

CITATION:

木原, 正雄. 献辞 (島恭彦教授記念號). 經濟論叢 1974, 113(1)

ISSUE DATE:

1974-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/133561>

RIGHT:

經濟論叢

第113卷 第1号

島 恭彦教授記念號

献 辞	木 原 正 雄	
現代世界の労働者階級	大 橋 隆 憲	1
所得税制史にかんする一つの覚書	廣 田 司 朗	31
大蔵省預金部改革前後	宮 本 憲 一	48
マルクス経済学と財政論	斎 藤 博	81
インフレーション研究の課題	横 尾 邦 夫	101
「向坂派」国家独占資本主義論の論理構造	坂 井 昭 夫	119
ニューディール期における政府金融機関の活動	青 木 圭 介	139
行政手段と公務労働	池 上 惇	165

島 恭彦 教授 略歴・著作目録

昭和49年1月

京 都 大 学 經 済 學 會



高 湛教授近影

島 恭彦 教授 記念論文集

献 辞

島 恭彦先生は、今年6月5日をもって満 63 歳の誕生日をお迎えになり、
来春4月1日停年退官されることになりました。

先生は、現代の財政思想確立の基盤をつくられた処女作『近世租税思想史』
をはじめ、数多くのご労作を発表され、以来学界において主導的役割をはたさ
れてきました。最大のご業績は、『財政学概論』にみられるように、新憲法の
もとでの財政学の体系をうちたてられたことであります。このほか、地方財政
の研究においても先鞭をつけられました。また、理論的研究のみならず、民
主的地方自治の確立を提唱され、研究の成果をひろく住民のために役立てる活
動をもすすめてこられました。

先生のご功績は、これにとどまるものではありません。ご在任中の研究や子
弟の指導のみならず、「学園紛争」の過程で、大学問題検討委員会の第3部会
長として、大学改革についてもご活躍されたことを、とくにつけくわえなけれ
ばなりません。

京都大学経済学会は、先生の長年にわたる学恩に感謝し、『経済論叢』の新
春1月号を記念号として編集することになりました。先生のご指導をうけられ
た方々の労作を、ご退官を記念して一冊にまとめ、先生に捧げることができま
したことは、わたくしども一同このうえもないよろこびといたすところです。

先生が、今後とも、ますますご健康で、学界のためのみならず、ひろく国民
のためご活躍くださいますことを心からお祈りいたします。

1973 年 12 月 25 日

経済学部長 木 原 正 雄